

【めむろ未来ミーティング】

**令和5年7月24日(水)**

**18:00～19:45**

**手をつなぐ育成会**

**芽室町どんぐり会**

■参加者 芽室町どんぐり会 13人

■芽室町 町長、健康福祉課長 障がい福祉係長  
広報広聴係長

- 1 町長挨拶
- 2 芽室町どんぐり会代表挨拶
- 3 自己紹介
- 4 意見交換

テーマ

「障がいを持つ人たちの生きづらさ」

#### ●町長挨拶要旨

前回2月8日に実施して以来であり、このような定期的な開催は共通認識を図っていくうえでも効果的だと感じている。町としても現在、障がい者福祉計画を見直しているところであり、今日いただく意見も非常に参考になると思う。また、将来に向けた障がい福祉のあり方や生き方など、適切に判断していくために、保護者の皆さんの意見は非常に重要になる。事前にいただいたテーマの他にも忌憚なくご意見をいただきたい。

#### ●芽室町どんぐり会代表挨拶要旨

障がいを持つ親の思いを直接、本音でお話しさせていただきたいと思う。これまで色々なことを解決していただいているが、年々、親も子も年を取ってきて、それに伴う課題なども今日はお話しできたらと思っている。

#### ●どんぐり会

本日の意見交換したい内容は以下の5項目。

- ① 医療費負担の軽減について  
療育手帳所持者の収入は、その大半が障がい者年金という人が多い。その中で医療費が占める割合は大きい。高齢者支援と同様に、インフルエンザワクチンの助成を含む医療費の補助をお願いしたい。
- ② ずっと芽室町で暮らしていくために  
会結成当初より大きな課題であった「親なき後」の負担は解消されることなく、さらに大きく重く存在する。生まれ育った芽室でずっと暮らすことを親も本人も強く望んでいる。障がい者の終の棲家が芽室町にでき、親なき後の不安が軽減されることを願う。
- ③ 就労者への支援について  
一般企業に就労している障がい者は、福祉的就労とはまた違った生きづらさを抱えている。定期的に、継続して支援者側からの働きかけができる支援体制を作ってもらいたい。
- ④ どんぐり会の活動を知っていただくために  
会は令和6年に結成50周年を迎えるが、一般市民はもとより、家族に障がい者がいる方も「どんぐり会」の存在を知らない方が多数いる。会の活動を知っていただくため、広報すまいるで会を紹介してもらえないか。
- ⑤ 現況届等、役場への提出書類の簡素化を  
福祉サービスを利用するにあたり、各種申請書類は種類も枚数も多様であり、保護者加齢とともに負担が大きくなっている。親なき後を考えると諸手続きの簡素化の必要性を感じているため、児童手当の現況届が不要になったのと同様、障がい者にも適用できる部分はないか。

#### ◇「医療費負担の軽減について」の件

##### ●町長

インフルエンザワクチンの助成については、重症化対策でやってきている。そのため、重症化しやすい高齢者や、重症化すると受験などに影響のある中学3年生を対象にやってきた経緯がある。障がいを持つ方が重症化しやすいということになれば、この対象に

入っていくということは考えられる。ただ、インフルエンザばかりではなく、コロナワクチンも有料化になっていくのだとすれば、コロナワクチンに対する助成はどうするのか、また、対象を広げることによって、子どもは対象に含めないのかななどの議論にもなってくると思う。それらも踏まえて、予防接種に対する助成については総合的に考えていく必要があると考えており、来年度すぐできるとはお答えできないが、障がいの種類や程度も含めて、町として総合的に判断、検討していきたい。

●どんぐり会

特定検診の費用なども検討してもらえないか。

●町長

医療費とは別の予防医療に関してだが、その考え方もあると思う。インフルエンザワクチンだけでなく、体力的に不安であるとか、健康問題全体でご意見をいただいた方が検討もしやすい。これから実行計画等で検討し、状況をお知らせしていきたい。

◇「ずっと芽室町で暮らしていくために」の件

●町長

本人もそうだが、親御さんにとっても切実な問題だということは感じている。本町のグループホームは、現在6施設34床でほぼ満床となっている。34床すべて町内の方が利用している訳ではなく、また、町内の方が町外の施設を利用している状況でもあるが、お話しにもあるように、町内で暮らせるという意味では、町内に施設がもっと整備されたらとは思っている。町としては障がい福祉計画の中で、何床必要になってくるのかなどを見越したうえで必要数を考えていかなくてはならない。計画を立てたうえで目標数に足りてない場合は整備する必要があるが、これから町として財産をもって建てていくという考えは方向性として持っていない。明言できないが、将来的には、調整や支援等を場合によっては町で行いながら、民間の福祉法人に建設、整備してもらうことになろうかと思う。近々の話として伝わっているので、目標数に向けて直営ではないにしても全力で

やっていく。8月には女性専用の12床あるグループホームがスタートした。そういう流れもあるが、業界全体としてヒト・モノ・カネが足りていない。人がいない部分が大きく、なかなか大きい施設の建設は難しい部分があると聞いている。

●どんぐり会

大変なのはよくわかるが、緊急時に困ったことがあったので、人が足りないから無理ということではなく、なんとかしてもらいたい。

●町長

緊急的な対応になるとショートステイ施設などはもう少しあっても良いとは思いますが、相談できる窓口もあって良いと思う。

●どんぐり会

今グループホームに入っている人が、年を取ったから別の施設に行かされる例をいくつか見ている。親が死んだから別の施設に移される場合もある。親が死んだり、年を取ったからといって違う施設に移されるのはやはり安心できない。なので、前回も話が出た、清水町のあさひ荘のような、顔見知りの人たちがいる中で、ゆったりと毎日を過ごせて、ゆくゆくは見取りができるような施設が芽室町にも建てほしい。

●町長

イメージはわかる。ただ、それを担ってもらえる事業者が必要。また、整備できても体制を整えて継続運営できるかが大事である。

●障がい福祉係長

あさひ荘の件、昨年回答した内容だが、改めて読み上げる。あさひ荘は、障がい者支援施設という位置づけ。定員50人で知的障害や身体障害などによって自宅での生活が困難な方が入所している。問い合わせたところ、平均年齢は約70代で、医療的なケアが必要な状態になれば、病院や介護老人施設などに移る方がいるとのこと。障がい者支援施設の経営母体は、国・地方公共団体・社会福祉法人に限定され、

グループホームのように NPO 法人・株式会社などの法人では運営できないものである。

●町長

施設に関する町のスタンスとして、まずグループホームを整備するということが第一の目標と考えている。その後が多目的施設をどう考えていくのかということになろうかと思っている。そして、皆さんやお子さんが高齢化したときに障がい者支援施設について考えなければならない。そういうステップだと思っていて、いきなり全部を整備ということにはならず、そういう優先順位だと思っている。将来的にそれらに取り組んでいただける法人を探していくというステップになる。

●どんぐり会

法人も人材が不足しているということだが、町と法人、施設と連携して、人材確保のために PR 等を行うことを考えてもらえないか。

●町長

町も介護人材が不足している点は非常に危機感を持っており、学生のアルバイトの時給に奨励金を上乘せして支給するというカイゴチャレンジ事業というものを行っている。そういったもので体験して介護の世界は良いなと思う学生もいるが、高齢者施設に行ってしまう傾向はある。それでも高齢者施設も足りないとは聞いているが、介護の世界に目を向けてもらう努力は必要かと思う。

●どんぐり会

千差万別な障がいを介護するためにグループホームを増やしていくということも一つだと思うが、やはり心配なのは、親がいなくなった後の本人たちの居場所をどう確保してあげるか。本人たちが安心して暮らせる場所をどう整備していくかが大事だと思うので、町が直接できないのであれば、全国からそういった企業を探して来ていただくというようなことを行って、将来につなげてもらえればと思う。

●町長

初めはやはり町内の福祉法人に声をかけ、厳しければ管内、道内というように考えている。築いているネットワークもあるので、そういう誘致はしっかり取り組んでいきたい。計画を作っている責任もあり、それに向けてどうするかというのは考えている。

◇「就労者への支援について」の件

●障がい福祉係長

障がいのある方が一般就労したとか、逆に一般就労していた方が退職したとか、そういう情報を町がリアルタイムですべて把握することは不可能。町の支援事業に関わっている方であれば把握できるが、関わっていない方もいる。その場合は、支給決定等の事務手続きで約3か月後にわかったりもするが、すべてではない。

一般就労した後の支援については、町内の NPO 団体が定着支援等を行っている。

●町長

一般就労した情報を知りにくいという部分はあるが、一般就労したため障がい福祉の対象でなくなったのもう町は関わらないということはない。なんとか繋がりを作りながら近況を聞いて、困りごとがあれば対応するという風にやっている。また、町の障がい福祉担当と工業団地担当と一緒に工業団地を訪問して、障がい者雇用に関して情報提供を行ったりもしている。そういったことでも繋がりができてくる。

◇「どんぐり会の活動を知っていただくために」の件

●町長

周知することは支障ないが、活動を知ってもらいたいのがメインなのか、会員を増やしたいのがメインなのか、どっちもなのか、そこを明確にして、町としてはそれに合わせた広報をするということになる。

●どんぐり会

会としては活動を知ってもらいたい。50年近くこういう活動をしているということを周知して知ってもらいたい。町の広報誌に大きく取り上げていただければ PR

効果もあるため、どんぐり会を知ってもらうことで、一人で悩んでいる方に向けても一緒に活動していこうと投げかけられたら良い。

●町長

それについては問題なく、後は頻度や内容について検討が必要。広報担当と役員でどういう目的でどういう記事にするかということは今後協議してほしい。ただ、毎月活動を報告するというような内容は難しいと思う。

●広報広聴係長

来年に結成 50 年を迎えると伺っているので、それに合わせて巻頭の「旬の人」のコーナーで取り上げるのもいいかなと思っている。その他も含めて今後相談させてほしい。

●どんぐり会

連続でなくても良いとは思っている、また、掲載させてもらうことで他の障がい者支援団体から自分の団体も載せてほしいというような声が上がれば、障がい者ネットワークを作りませんかというような働きかけを私たちからすることもできる。

●町長

なぜどんぐり会を掲載したのかという声があっても、希望があったからと、それで他に希望があれば受けていくという方向でいいと思っているが、そんなに希望は多くないと見込んでいる。

◇「現況届等、役場への提出書類の簡素化を」の件

●町長

現況届等は、国で必要な書類が決められているため、仕方ない部分があるが、ただ、ずっと紙ベースでやっていくのかという部分はあるため、ある程度一元化して町で整えるということではできるかもしれない。町も今デジタル推進をやっていて、これからどんどん変わっていく。特に窓口業務が一番先に進める。例えば色々な書類に住所や名前を何度も書くことは効率的でないため、最初から印字しておくとか、初めは

そういう細かい部分から変えていけたらと思っている。町の DX 推進では「選択肢を広げる」と言っている。紙を全部一気に無くそうとは思っていないで、紙以外にもスマホやパソコンで申請できるという風にしていきたい。そういうステップでやっていくので、まだしばらく必要なものは必要で、それがないと手続きできないということはあるが、段々と変えていきたい。マイナンバーカードによって個人の年金の額が把握できるので、年金事務所に行って書類をもらってきてくださいとか、そういう必要がなくなる時代が近々くるのかもしれない。

●どんぐり会

まさにそこを伝えたくて、紙を出すのが大変だからパソコンで出したいとかいうことではなく、書類を揃えて持っていかななくても、役場で分かるから不要ですよと言われてもらえる状況が望ましい。

●町長

そういう状況を目指していきたい。

19 時 45 分終了



（芽室町どんぐり会とのミーティングの様子）